

大阪の家族劇団「楽市楽座」 高知八幡宮で野外劇 来月1～4日



大阪を拠点に活動する家族3人の劇団「野外劇団・楽市楽座」（長山現座長）の公演「鏡池物語」が10月1～4日のいずれも午後7時から、高知市はりまや町3丁目の高知八幡宮境内の特設舞台で行われる。

劇団は長山さんが1991年に旗揚げ。大阪市北区の中之島公園に舞台を設営するなど、屋外を中心に公演を続けてきた。

現在のメンバーは長山さんと、妻の佐野キリコさん、小学4年生の長女、萌さん。創立20周年を来年に控え、「もっとたくさんの人に野外劇の魅力を知ってほしい」と全国32カ所を巡回するツアーを企画した。

4月から11月末までの予定で、軽トラックとワゴン車に乗って北海道から沖縄まで回っている。公園や神社などに直径5メートルほどの人工の池を作り、丸い盆が浮かんだような回転舞台を設営。投光器の明かりで舞台を浮かび上がらせるという。

「鏡池物語」は長山さんのオリジナルストーリー。ヘビと金魚が恋に落ち、鏡池に浮かぶ月の上で暮らしていたところ、小さな虫がやって来るといった粗筋。ギターと縦笛などを奏でる中、歌や踊りも交えたユニークな物語が展開される。

佐野さんは「神社の境内は昔からお芝居を披露してきた場。夜の暗がりで見ると劇の雰囲気合っている。多くの人に来てほしい」と呼び掛けている。雨天決行。入場無料だが公演終了後、投げ銭を受け付ける。(村瀬佐保)

【写真説明】

7月、金沢市の金沢21世紀美術館の屋外で行った公演。回転舞台で役者の顔がどの角度からも見える仕組みになっている